

令和5年度 全国学力学習状況調査結果分析

泉大津市立誠風中学校

国語

問題 番号	教員による事前分析				問題			結果			
	解けて いるは ず	解けて いてほ しい	解けて いない だろう	これは むずか しい	評価の観点	内容	問題形式	結果 正答率	結果 正答率 全国比	全国平均が 70%を超え ている問題	結果 無回答率
1-1	2	5	1	0	思・判・表	話す・聞く	選択	85.1	-2.4	○	1.2
1-2	1	6	1	0	知識・技能	情報	選択	56.0	-9.1		1.7
1-3	1	6	1	0	思・判・表	話す聞く	選択	63.5	-13.1	○	1.2
1-4	0	4	3	1	思・判・表	話す聞く	記述	64.3	-18.2	○	23.7
2-1	2	4	2	0	知識・技能	言葉	選択	86.7	-4.4	○	1.2
2-2	0	6	2	0	思・判・表	読む	選択	49.0	-14		1.7
2-3	0	5	3	0	思・判・表	読む	選択	65.6	-8.6	○	1.2
2-4	0	4	2	2	知技・思判表	言語文化・読む	記述	49.8	-17.7		12.0
3-1	1	5	2	0	思・判・表	書く	選択	49.8	-4.5		1.2
3-2	1	6	1	0	知識・技能	言葉	短答	46.1	+2.2		13.7
3-3	0	4	4	0	知識・技能	情報	短答	49.0	-12.8		5.4
3-4	0	4	3	1	思・判・表	書く	記述	59.3	-12.8	○	19.5
4-1	2	5	1	0	知識・技能	言語文化	短答	69.7	-12.8	○	8.3
4-2	0	7	1	0	知識・技能	言語文化	短答	53.5	-20.6	○	10.0
4-3	0	4	3	1	思・判・表	読む	記述	34.0	-16		37.8

結果からみる課題と改善策

(1) 課題：「話す聞く」問題について低い。→実践型の学習活動は行っているが、文章で〈読む力〉を活用しながら、話し合いについての文章を読むことができていない。生徒質問紙(48)国語の勉強は好きですか(49)国語の授業はよく分かりますか。の質問について肯定的な意見が全国平均を上回っている。反面、(50)国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか。については全国平均より約10%低い。

改善策：実践型の活動をパフォーマンス評価として取り入れるとともに、話し合い活動の文章表記されたものをプレテストや単元テストなどに加える。また、授業でのパフォーマンス練習などの前に文章表記されたものを読み合い、改善点について話し合う活動を取り入れる。学校での学びを実践的かつ応用的に行うことで「話す聞く」についての課題は改善できるのではないかと。

(2) 課題：言語文化(古典)の問題が解けていない。→教員が身につけているだろう、「できる」と想定していたものについて極端にできていない。簡単な語句についての知識技能に課題がある。また、現代語訳や問題文を読めば「正答」がわかるものについてもご回答が多い。古典は知識がないと解けないというように誤解しているように感じる。

改善策：まずは音読を中心に古典の文章に親しむ。音読をすることで古典に触れる時間を増やす。*暗唱でなくてもいい。また、古典を読む際の手がかりとしての現代語訳を生かし、場面を再現するなどの学習活動を行う。(場面描写)

(3) 課題：記述問題について無回答がある。生徒質問用紙についても無回答が前半0.0→後半8.6%に上がる。粘り強く取り組むことができていない。また因果関係があると考えられる生徒質問紙(自分にはよいところがあると思いますか(34.6%が否定的)質問紙(将来の夢をもっていますか。(45.4%が否定的)が上げられる。質問紙(30)地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。(否定52.8%)

改善策：学習活動にとどまらず、学校の教育活動全体として粘り強く課題に向き合い、達成する、やり通すという力を育む必要があると考える。

(4) (1)、(2)、(3)にわたる広い範囲で、問題文の読み取りが弱い。文章の中に正答につながるものがあるという『読めば解ける!』という感覚や慣れがなく、深く考えなければ正答を出せないという苦手意識が感じられる。

数学

問題 番号	教員による事前分析				問題			結果			
	解けて いるは ず	解けて いてほ しい	解けて いない だろう	これは むずか しい	評価の観点	内容	問題形式	結果 正答率	結果 正答率 全国比	全国平均が 70%を超え ている問題	結果 無回答率
1	6	0	0	0	知識・技能	数と式	選択式	40.7	-5.4		1.7
2	5	1	0	0	知識・技能	数と式	短答式	73.9	-6.6	○	6.2
3	1	3	2	0	知識・技能	図形	選択式	24.1	-6.3		2.1
4	0	4	2	0	知識・技能	関数	選択式	31.5	-14.6		1.7
5	1	4	1	0	知識・技能	データの活用	短答式	27.0	-19.1		24.5
6-1	5	1	0	0	知識・技能	数と式	短答式	76.3	-12.6	○	8.3
6-2	0	2	4	0	思・判・表	数と式	記述式	42.3	-16.5		29.5
6-3	0	1	5	0	思・判・表	数と式	記述式	30.7	-10.2		39.8
7-1	1	2	3	0	知識・技能	データの活用	短答式	46.9	-18.8		13.7
7-2	0	1	4	1	思・判・表	データの活用	記述式	20.7	-12.9		46.5
8-1	0	4	2	0	知識・技能	関数	短答式	41.5	-16		16.2
8-2	0	4	2	0	知識・技能	関数	選択式	42.7	-19		2.1
8-3	0	1	3	2	思・判・表	関数	記述式	26.6	-16.2		19.1
9-1	1	2	3	0	思・判・表	図形	記述式	18.3	-13.8		40.7
9-2	0	4	2	0	知識・技能	図形	短答式	23.7	-13.3		22.4

結果からみる課題と改善策

- (1) 問題2、6-1ともに全国平均が70%を超えている正答率の問題については本校でも70%以上の正答が出来ている。いずれも「数と式」の範囲であり、一度授業などで目にしたり解いた経験のある問題については力を発揮している。
- (2) 課題…【データの活用】の内容が弱い。問題5については、「累積」の意味がわかっていること、6-1については四分位範囲という言葉の意味を理解していれば、答えられる問題であるが、無回答も多く、正答率が低い。
- (3) また、数学については、記述問題について、無回答率が最大46.5%となる問題もあり、記述問題についての対策が必要である。

改善策として

→基礎基本となる問いに対しても課題が見られるため、しっかりと基礎基本の定着を授業改善と共に行うこと。また、振り返りの時間を確保し間違いのまま学習が進まないようにするとともに、振り返りの記述の内容についても普段の生活を絡めた内容で生徒が考え結果として記せるものになるように改善を行いたい。また、データや資料を活用する機会が他教科でも見られるようになっているため、教科の学習活動を超えた総合的な学習の時間などでも数学で学んだことを利用する、活用すしていけるように横断的な学習を目指していく必要がある。

英語

問題 番号	教員による事前分析				問題			結果			
	解けて いるは ず	解けて いてほ しい	解けて いない だろう	これは むずか しい	評価の 観点	内容	問題形式	結果 正答率	結果 正答率 全国比	全国平均 が70% を超えて いる問題	結果 無回答率
1-(1)	事前分析を行わず				知識・技能	聞くこと	選択式	67.5	-11.5	○	0.8
1-(2)					知識・技能	聞くこと	選択式	48.8	-15.6		0.8
1-(3)					知識・技能	聞くこと	選択式	41.3	-8.5		0.8
2					思・判・表	聞くこと	選択式	47.1	-14		0.8
3					思・判・表	聞くこと	選択式	31.7	-9.5		0.8
4					思・判・表	聞くこと	選択式	45.4	-9.4		0.8
5-1	2	3	0	0	知識・技能	読むこと	選択式	43.3	-12.7		0.4
5-2	1	4	0	0	知識・技能	読むこと	選択式	58.3	-6.2		0.8
6	0	4	1	0	思・判・表	読むこと	選択式	28.3	-7.6		1.3
7-1	1	3	1	0	知識・技能	読むこと	選択式	53.3	-6.5		1.3
7-2	0	2	3	0	思・判・表	読むこと	選択式	28.8	-5.9		1.3
8-1	0	4	1	0	思・判・表	読むこと	選択式	43.3	-12.8		2.1
8-2	0	2	1	2	思・判・表	書くこと	記述式	10.8	-8.7		50.4
9-1①	0	4	1	0	知識・技能	書くこと	短答式	32.5	-7.9		16.7
9-1②					知識・技能	書くこと	短答式	16.7	-4.2		19.2
9-2	0	2	1	2	知識・技能	書くこと	短答式	17.1	-11.9		42.5
10	0	0	1	4	思・判・表	書くこと	記述式	4.2	-3.2		45.8

結果からみる課題と改善策

書くことについての問題が、すべて無回答率が高い。

8-2については、文章を読み、本文の終末にある「Do you agree with me? Why or why not?」に対する回答を答える問題であるが、最後まで英文を読めていないからか無回答目立っているよう感じる。本文に使われた単語を手がかりにして回答ができれば無回答率50%を超えてしまうことはない。記述問題に対する苦手意識が先行している。

9-1①②については短答式であるが、文法事項などを理解し書くことができるかの問いである。①については未来表現の文を記述できていない生徒、②については疑問文を用いていない生徒が見られた。これらの誤答と無回答を合わせると半数近い生徒が基礎的な英語表現が身につけていないことがわかる。

改善策として

→各単元でWritingの時間を確保し、書くことに慣れさせるとともに、単語や文法といった基礎的な力の定着をミニテストやサポチャレを運用し身につけさせたい。

生徒質問紙について 全国の肯定的な意見(当てはまる、どちらかといえば当てはまる)と比較

- ・自分にはいいところがあると思いますか(-14.6)
- ・先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか(-8.2)
- ・将来の夢や目標を持っていますか(-12.7)、人が困っているときは、進んで助けていますか(-11.3%)人の役に立つ人間になりたいと思いますか(-7.4)(*当てはまるを選んだ生徒については-23.1)自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか(-11.2)肯定的な意見が低い。
- ・部活動に参加していますか(-35.9)
- ・また、質問紙についても無回答率が問を重ねるごとに高くなっている傾向がある。

→粘り強く何かに取り組むことや、一人一人のよいところだけでなく、短所や弱い部分についても認めていく教育活動が必要である。